

第10号

# 熱田高同窓会報

発行  
愛知県立熱田高等学校  
同窓会事務局  
TEL(052)-652-5858

同窓会ホームページ  
URL:<http://www.atsuta.gr.jp/>

熱田高校ホームページ  
URL:<http://www.atsuta-h.aichi-c.ed.jp/>

空から見た熱田高校



## 創立六十周年記念を終えて

同窓会会長 佐々木 元彦

会員の皆様には、益々ご健勝にご活躍のこととお喜び申し上げます。

平成二十四年十一月十一日の創立六十周年記念同窓会総会並びに祝賀会の行事は、成功のうちに無事終えることができました。この催事には、歴代校長・恩師・現職の先生・会員の皆様方総勢約四百名程のご参加がありました。これを企画し携わり支えていただいた方々に厚く御礼申し上げます。本会は、五年毎の周年記念の会を重ねるたびに同期会の催しが促進され、同期生の絆が広がっていると拝察します。このたびは、十八期生分の同期会が開かれ、同窓の絆づくりに頼もしさを感じました。昭和二十八年、新教育制度のもと県下のモデル高校として誕生し、昭和三十一年の一回生三クラス一五七名の卒業生から、本年度二万四千名を擁すまでになりました。

勇気をいただき胸が熱くなります。本会の目的は、規約第二条「会員相互の親睦をはかり母校の発展に寄与する事を目的とする」とあります。先輩・同期生・後輩の関係を通じ会員相互の縦と横の絆と親睦を深め、母校のさらなる発展と教育の振興に卒業生として力を尽くしましょう。卒年の代表幹事並びにクラス幹事の方、同期の連帯と絆づくりにご尽力いただき、同期会やクラス会の開催を促進してください。

「同窓会報」は大切な情報交換の場と考えております。これまで財政上支障があり、寄付金を募っての発刊でなかなか困難を伴っておりました。役員会は、しばらくの間ホームページを利用してお知らせすることに決めました。ご理解のうえ、ニュースをお寄せくださる事をお願い申し上げます。

おわりに、会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念しご挨拶ご報告いたします。

平成二十五年二月吉日

## 創立六十周年記念実績

- 一、総会と祝賀会の開催
- 一、会員名簿の作成
- 一、体育館のどん帳一式の寄贈
- 一、体育館の空調設備の寄贈
- 一、野外テント二張りの寄贈

会員名簿は、五カ年毎にページ数も増え続けてまいりましたが、二〇一二年版は、名簿委員会の検討によって、新しく内容を整理整頓させていただきました。この名簿に掲載されている仲間が、『日本の人材』として諸分野で活躍する様は誇りと、

## 創立六十周年を祝して

校長 石黒 茂



本年度、創立六十周年を迎え、十一月八日に本校体育館で記念式典を挙げる事ができました。

記念事業として、同窓会から体育館の緞帳一式や空調設備などを御寄附いただき、誠にありがとうございました。傷みがひどくなった体育館の設備が一新され、生徒たちも大変喜んでおります。また、十一月十一日には、同窓会総会並びに祝賀会にお招きいただきありがとうございます。実行委員長の佐々木同窓会長様、実行委員として御尽力いただいた役員の方々をはじめ同窓会の皆様方にも先ずもって感謝の意を表したいと思っております。奇しくも総会当日は、サッカー部が全国高校サッカー選手権大会出場に向け、県大会の準決勝を戦っておりまして。惜しくも敗れてしまいました。祝賀会に花を添えてくれました。サッカー部は、本年度から二十三回生の青木宏憲監督の指導の下、古豪復活を目指し、頑張っておりますので、応援よろしくお願ひ申し上げます。

さて、本校は来年度から、全日制が各学年八学級となります。大学進

学への対応のため、全日制では現在、月・木曜日が七限授業の週三十二時間で教育活動を行っています。七限授業の日は、授業後の時間の制約が厳しいにもかかわらず、部活動や生徒会活動などに、生徒たちは今でも熱心に取り組み、成果をあげています。先程のサッカー部を筆頭に、陸上部、テニス部、バスケットボール部、柔道部などが県大会に出場し、文化部でも物理部が科学技術振興機構の中高生の科学部活動振興プログラムに三年間採択されるなど全国的な実績を上げています。吹奏楽部も、鉄道の日に金山駅で演奏するなど、校外で積極的に演奏を行っています。また、大学進学に向けても、PTAの協力を得て、全教室に空調設備を導入し、一年生の夏からの補習授業や模擬試験を実施しています。

同窓会の皆様方には、これからも本校の教育活動をしつかりと支えていただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

## 体育館の堂章



堂章のみどりは、楠の葉を型どった三本の木々に、本校が教育目標とする品格ある人間、気力ある生活人、健康なる日本人を、また、全体にはきよき森を表わして、心の啓示とし、その育成と生々発展とをこい願っている。

## 60周年記念の経過

平成二十四年十一月十一日(日)午後二時、名古屋国際ホテル二階の全フロアーを借り切りの会場に参加者約四百余名が集いました。

当日、ホテルを利用しての同期会の開催が多くあり、祝賀会の前と後で会場の調整をしました。前は五期分、後は十期分あり、また他会場を利用の同期会は三期開催されております。総会式典は、三十六回生樺山泰久副会長の司会で式次第に従って、

佐々木元彦会長の式辞、御来賓を代表して第四代日比野文一校長の祝辞、第十五代石黒茂現校長による熱田高の現状についてのご挨拶がありました。次に本会の経過報告、会計報告と監査報告、役員の変更、規約の改正等の審議が順調に進められました。

第二部は、十九回生恒川良三監査の司会のもと、創立六十周年祝賀の宴に移りました。第九代日下英之校長の力強い乾杯のご発声で祝宴が始まりました。久しぶりに逢った恩師の方や先輩・同期生・後輩との懇談が和やかに賑やかに進行し、また舞台では記念撮影などがありました。

(当日の記録写真は、同窓会HPからダウンロードできます)

校歌を十八回生近藤早苗先生の指揮のもとに全員で声高らかに合唱し、おわりに、次回の五年後の再会を約し、第十一代村本邦夫校長のご発声で万歳三唱を唱和し、盛況のうち祝宴を閉じることができました。

役員会は、六十周年記念の事業内容等について、一年半の準備期間を費やして、種々の精査検討をしてまいりました。まずは、学校側への寄付行為、続いて会員名簿の発刊の準備と名簿委員会の立ち上げ、基金の募金委員会の立ち上げ、会報の発行の利点の精査等を慎重に審議をしてまいりました。

会員名簿を購入された方々、どうか名簿が悪用されたり転用されたりすることの無いようにお力添えくださるようお願い申し上げます。なお、チラシでご案内しておりました通りご注文者以外の名簿の残はありません。入用の方は次回発刊案内までお待ちください。(事務局より)



左から村本、日下、佐々木会長、日比野、神野、渋谷、石黒の 歴代校長



祝辞を述べる日比野校長



参加された現・旧職員

### 同窓会役員

(平成24年4月1日より)

会長	佐々木元彦 (1回卒)		
副会長	波田 志 (1回卒)	中野 道孝 (2回卒)	
	岩淵 正憲 (3回卒)	豊田 和弘 (4回卒)	
	西田 和子 (5回卒)	万前 秀男 (8回卒)	
	小林 勝治 (7回卒)	井上 重夫 (8回卒)	
	武藤 史子 (9回卒)	内藤 明広 (10回卒)	
	谷澤 伸 (11回卒)	真木 伸一 (13回卒)	
	福島 義広 (14回卒)	石田 直城 (15回卒)	
	伊藤 武博 (16回卒)	柿崎 賢一 (17回卒)	
	山口 直彦 (18回卒)	木村 隆秀 (19回卒)	
	佐々木 博 (21回卒)	奥田 隆庸 (25回卒)	
	近藤かをり (26回卒)	梅村 敬史 (28回卒)	
	樺山 泰久 (36回卒)	安中 富一 (定1回卒)	
	書記	宮田 忠男 (10回卒)	小倉美津夫 (16回卒)
森 久勝 (定1回卒)			
会計	江村 雅夫 (4回卒)	田村 健治 (定1回卒)	
監査	神谷 和雄 (15回卒)	恒川 良三 (19回卒)	
学校幹事	鈴木茂明 (17回卒)	杉藤 充彦 (20回卒)	
	鈴木矢代子 (21回卒)	青木 宏憲 (23回卒)	
	川辺 浩 (23回卒)	野村 弘昭 (42回卒)	
	愛知 輝樹 (46回卒)		

平成25年3月1日

#### 総会・創立60周年祝賀記念 収支決算(仮)会計報告

[収入の部]

記念募金 @2,000円×2,269.75口	4,539,500
会員名簿協賛広告 57件	1,820,000
会員名簿販売 @5,000円×335冊	1,675,000
総会・祝賀会参加費 @10,000円×324名	3,240,000
同窓会基金より出金	6,945,284
<b>計</b>	<b>18,219,784</b>

[支出の部]

熱田高への周年寄付事業 3件	5,852,280
会員名簿製作費関係費用	7,350,000
各種役員会・準備会費用 9件	663,450
同期会開催促進諸費用 2件	399,192
祝賀会国際ホテル諸費用	3,322,421
祝賀会の為の諸費用 6件	344,835
通信費 18件	109,150
事務用品・諸雑費 20件	178,456
<b>計</b>	<b>18,219,784</b>

平成25年2月8日上記のとおり、創立60周年記念に係わる収支決算(仮)会計報告をします。

会計代表 江村雅夫  
主執行担当 万前秀男

平成24年度 創立60周年記念に係わる収支決算(仮)会計報告における証拠書類並びに会計帳簿を精査したところ、正確に処理されていることを認めます。

平成25年2月12日

監査代表 神谷和雄

# がんばれ熱高生

今回は、旧職員に原稿を依頼しました。旧職員・卒業生にとっては、なつかしく、すぐ思い出される先生方だと思います。

秦賢吾先生(熱田高校在職二十八年)、岡田裕先生(同二十三年)、高橋信先生(同十八年)、八木敬彦先生(同十九年)です。先生方にはその心の内を語ってもらいました。

## 創立六十周年を祝して

八木敬彦



熱田高校創立六十周年おめでとうござい  
ます。記念式典・同

窓会総会等が成功裏に終えられたことを心からお祝い申し上げます。私事で当日は参加できずに大変残念であり、申し訳なく思います。

私が熱田高校から転出してはや五年が経ちますが、事あるごとに熱田高校のことを思い浮かべます。それは私にとって熱田高校は、十九年間お世話になった高校であり、教員生活において様々な経験をさせていただいた、第二の故郷ともいえるからです。当時のことを振り返って一番思うことは、生徒・職員がとても温かかったということです。三十七歳

で生徒指導部長を仰せつかって十二年間、悪戦苦闘の毎日でありましたが、いきとどかない点や失敗があっても先生方は温かく見守ってくださいました。また、生徒も私の気持ち

をくんでくれたのか、大きな問題もなく素直な生徒ばかりでした。ただ残念なことは、「自由」をはき違えていた生徒がいたことです。当時は私も生徒には「自主自立」ということをテーマにして生徒指導を行っていました。生徒の中には時に自主自立を、自由・勝手とはき違え行動することがありました。それは周りへ思いやりのない行動であり非常に残念でなりませんでした。

熱田高校の教育目標は、「品格のある人間、気力ある人間、健康なる人間」を目指すことだと記憶しています。この目標に向かって努力した結果、熱田高校は様々な分野で多くの著名人を輩出してきました。どうか生徒の皆さんは、諸先輩方の思いを

引き継ぎ、自己の能力を最大限発揮されまよう期待しています。そのためには、物事をしっかり見詰め、考えることが私は不可欠だと思いません。先日たまたまテレビのスポーツドキュメンタリー番組で、『考える力』で強くなれ』という兵庫県の駅伝名門校である西脇工業高校のことを報じていました。顧問の先生は選手育成に際し、細かな指示をあたえず、選手自らに考えさせ気付けさせることよって、本当に必要な力を身につけさせることだ、とおっしゃって見えました。現代はよく指示待ち人間が多いと言われています。未来に向かって諸先輩方に続くよう、『考える力』を磨き努力していきましょう。

そして校歌にもあるように、熱田高校が「若人の望なり、若人の力なり、若人の命なり」であり続けます



20年前の若き日の八木先生(右から2人目)

ように心からお祈りしています。熱田高校がさらなる発展を遂げられますよう私も影ながら応援し続けていきたいと思えます。

「熱田高校在籍十八年といま思

うこと」

高橋 信



無くしたくない記憶に

残るあれこれ

一九八五年四月に熱田高校に転勤してから約二十八年、二〇〇三年三月に熱田高校で定年退職を迎えてから約十年の歳月が過ぎました。記憶に残る「名場面」を以下、いくつか順不同で綴ります。

その一 現代文の宿題がある生徒が「今日は朝、学校に行きたくなかったので名古屋港に行ってきた。海を見ていたら気持ちが晴れたので、午後学校に来ました」と書いたのを担当の教員が口に出して読んで、「高校生らしいな」という感想をもらしたところ、それを聞いていた教頭が「わしにも見せて。なるほど、そうか、そうか」と、相づちを打ちました。前任校なら「怠学」扱いになるのにと、思わず唾を飲み込んだものです。その二 秋の体育祭のことで。前夜の雨で、クラウンドはぐちゃぐちゃ。その日は、秋晴れの晴天でしたが、とても決行できる状態

はありませんでした。ところが、百人余りの生徒が、始業のチャイムと「教室に戻るように」との生徒会主任の放送そつちのけで、雑巾とバケツを使って水のかき出しに夢中。こうした事態の中、臨時職員会議もたれ、「生徒があれだけ頑張っているので、一時間ほど様子を見て判断することとしました。さて、一時間後の職員会議は、生徒のがんばりと晴天というまさに「天佑」により、異論なしで「決行可能」という判断をしました。私は、熱田が「生徒が主役の学校」だということを実感しました。その三 学校祭の全校討論



「ふたたびヒバクシャをつくらないで」と来て訴える高橋さん (2011.12.9)

会です。二時間ほど使って三学年縦割りの20から25の分科会をつくり、テーマにそって討論するというものです。熱田高校ならではの見事な伝統行事でしたが、討論が成り立たない状況が生まれ、私が転勤して数年後、「カルチャータイム」という企画

に変更になりました。

**その四** 修学旅行の基本原則を、①平和学習、②歴史学習、③自然学習の三つとすることを職員会議で確認し、広島訪問が定着しました。そしてホテルでクラス毎に、被爆体験を聞く時間が設けられました。学年全体とか学年二分割ではなくクラス毎に聞くので密度の濃いものになりました。被爆者にも珍しい学校だとほめられました。その五 教員の話です。どこの学校にも全教職員で構成される親睦会があります。私が幹事の時、親睦会会計から一括して結休者カンパ(結核などで求職中の職員に年末にカンパすること)を出したいという提案をしたところ(それはたいていの学校の習わしなのですが)、「熱田は反対者がいるかもしれないので、個人個人から集めている」という理由で、私の提案は退けられました。また、学校祭の準備日を敬老の日に合わせて、軽減休日を二連休にする案を生徒会から提案したのですが、二人の教員から「祝日休日を安易に勤務日にするべきではない」「こういう問題は、一人でも反対意見があるときは多数決で決めるべきではない」との意見がだされ、相当議論したあげく、その意見通りになったのです。この二例は、民主主義とは単なる多数決ではなく、多数が少数のことを考えることの大切さを教えてくれました。……さて、まだまだ、書きたいことは、たくさんあります。紙数がつきまきましたの

でこの辺で例示は止めます。ここに例示した事例は、けっして忘れてはならない「熱田の宝」だと思います。

**いまこの国に思うこと**

戦後六十八年、そして三・一一以後の二十一ヵ月と今回の総選挙の結果を考えると、この国は、どんな悲惨なことでも「すぐ忘れる国」「他人の痛みを共感できない国」と思えてなりません。十六万人も避難生活を強いられているフクシマの人々、野田前首相の「収束宣言」とは裏腹に放射能を出し続ける福島第一原発の現状、約二万人もの死者(未だに二、七―三人もの行方不明者)を出し、がれきの地と化した東北三県の惨状が、またまた「経済の論理」で忘れ去られようと、否!消し去られようとしています。沖縄問題もわかりです。沖縄の米軍基地のよる被害を私たちはどれほど知っているのでしょうか。わずかに日本本土の0.6の面積しかもたない沖縄に米軍基地の75%が集出し、普天間基地のように人口密集地の上空を米軍機が飛び交い、危険と騒音に毎日晒され、米兵による蛮行が後を絶たない沖縄の現状をどれだけ知り、その苦しみを共有しているのでしょうか。

**熱田高校の生徒手帖と教育基本法**

さて、熱田高校の生徒手帳には、「教育基本法」が掲載され続けてきました。ご存じのように「教育基本法」は、二〇〇六年十二月、安倍自

民党により「改正」(改悪)されてしまいました。「改正」されなかつたら、掲載され続けたでしょうか。はなはだ心許ないものです。「改正」前教育基本法前文には、「われらは、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに、普遍的にしてしかも個性ゆたかな文化の創造をめざす教育を普及徹底しなければならぬ」と明記されています。熱田高校の教育は、私の例示から、ほぼこの「教育基本法」の理念に則っていたと言えるのではないのでしょうか。熱田高校の教育からは、私が前述した「いまこの国に思うこと」のような事態は生まれません。『熱田の宝』の由縁はそこにあるのです。ところで熱田高校は、「変わった」という話が聞こえてきます。変わったとしたらどのように変わったのでしょうか。知りたいところです。

**教師生活のアンコール**

岡田 裕



熱田高校には、昭和四十八年から

平成八年まで二十三年間お世話になりました。当初は経験も乏しく、穴があつたら入りたくなるような失敗の数々で、生徒にも、先生方にもご迷惑をかけました。しかし、そんな私を、二村鉄男先生をはじめ、多

くの先生方にご指導いただき、教員としてのノウハウを身につけることができ、半世紀近くに及ぶ教員生活を全うできたように思います。本当に、感謝、感謝です。また、生徒にも恵まれました。あの頃の生徒は、最初に根回しをし、少し背中を押ささえれば、自分たちで工夫をして行動ができたように思います。そんな生徒達に囲まれ、担任や部活動をしていることが楽しみでもありました。教員生活の半分を過ごした熱田高校は、私にとっては、数々の良い思い出のつまったふるさとであります。入試制度の変遷に伴って、熱田高校も徐々に様変わりしているというわさを聞きますが、良き伝統を守り、ますます発展しますよう祈念してやみません。

さて、ひよんな事で、平成二十二年の九月中旬から、県立名古屋南高校で常勤講師として数学を教えています。十年前に公立高校を定年退職しその後、愛工大名電高校で十年間勤務しました。そして、この三月で四十八年間の教員生活に区切りをつけてはざでしたが、再度教壇に立っています。十年ぶりの県立高校での勤務は、まさに浦島太郎の心境で、最初は戸惑うばかりでした。出席簿はなく、休暇を取るにもコンピュータを操作し、使い勝手の分からない私にとっては、二時間の休暇を取るにも多くの時間も費やす始末です。十年一昔とはよく言ったもので、県立学校の教員を取り巻く環境の変化

には、ただただ驚くことばかりです。しかし、先生方の中に、熱田高校の教え子がいたり、元同僚の方がみえたりして、この古いぼれを温かく迎えてくれて、楽しくやっています。幕を下ろした教員生活でしたが、再び幕が開きアンコール上演をしていると勝手に思い込み、教えることのできる慶びを噛み締めている毎日です。退職後の運動不足の解消にと、六十四歳からゴルフを始めました。なかなか上手くなりませんが、中学時代の友人と楽しくラウンドしています。これからも、元気にいろいろなことに挑戦していきたいと思っています。



スペインにて (2012.4.16)



熱田高等学校校歌

「望、力、命の賛歌」のこと



秦 賢吾

熱田高等学校の創立六十周年に際して、心よりお慶び申し上げます。

顧みるに、思い出深く、懐かしさ一入のものがあられ、まさに感無量。私にとって一番の思い出、校歌について申し述べたいと思います。

校歌については、校誌「熱田」で吉良幸生先生と目下英之校長先生によつて詳しく記述いただいています。本校在職中に生徒諸君や職員とともに歌い味わった上での話で異口同音の賛辞であります。

今回、音楽(作曲法)の面から、初代校長積木倫一先生からお伺いした話を基に、その背景も含めてお話ししたいと思います。

作詞は積木先生が常々その道で尊敬されている荻原井泉水氏にお願いされたとお聞きした。

「理想とする新設校のビジョン」を教育目標や地理的背景を含めて詳細に説かれ、希望に満ち時を経てなお通じる象徴的で普遍的言葉による歌詞を依頼されたとお聞きした。

作曲は「井泉水氏たつての推薦に従い、團氏にお願いした」と、併せてお聞きした。

以下、この校歌の魅力点の多くをアナリーゼ(楽曲分析)しながらお話しします。

團伊玖磨は、東京音楽学校(現東京芸大)同窓の芥川也寸志や黛敏郎と共に新進気鋭の作曲家「三人の会」の一人。團はパリの現代音楽祭でオペラ「夕鶴」で好評を得た後、本邦上演で、その抒情的美しさにあふれる作風で更に好評を得た人である。

① 全曲が五音句で創られた所以。私の想像での話ですが「日本歌曲と詞」に関しての話し合いが、研究心旺盛な井泉水氏と、欧州と日本で不動の好評を得た團との間でなされたのではないかと、思われる。

ことそれ程に、両者の連携が功を奏して見事に創造されたと言える。「五音句」で綴られた簡潔で精選された詞に対して、最大の気遣いで応じた作曲家。この両者の組み合わせが第一の魅力ある特徴点である。

② 日本語特有の「抑揚」が全曲ほぼ統一して配置され、これが作曲の段階で様々な技法を駆使して見事に活かされている。「抑揚」重視の作曲法は、「赤とんぼ」など多くの歌曲を残した山田耕筰以降の楽壇で「日本歌曲」の主流をなしている。

「抑揚」を活かした歌曲や日本語によるオペラを創作した團伊玖磨は山田耕筰賞や伊庭歌劇賞、NHK創立記念賞を受賞した人である。NHK賞受賞の三、四年後に本曲の委嘱を受け、昭和三十三年これを完成した。

①や⑦の「五音句を二小節に」と「若人の力なり」繰り返しの件を併せ考えると、お二人の細密な連携が領ける所以でもある。何よりもこの優れた歌曲が如実に物語っている。

日本語の持つ美しさや微妙な語感には、「抑揚」を活かすことによりその深みが大きく変わってくる。

この優れた「抑揚の活かし」が、本曲二つ目の大きな魅力点である。

③ 音の進行で「跳躍」と「並列」をほどよく混ぜる手法が大切である。日本語の歌は、「抑揚」を更に強調した音の高低と、音の長短リズムで旋律が生まれる。その際、「跳ぶ事」と「並べる事」を適度に混ぜ綴ることが求められる。自然で歌い易く活き活きとした美しい旋律か否かが、重要なポイントとなる。

この「跳躍音」と「並べる音」の絶妙な織り混ざりがバランス良く綴られ、構築の巧みさと相まって本曲三つ目の大きな魅力点となっている。

④ 弱起の曲となった所以。「光あり」の「ひ」を小節の前に置いて「か」を次の一拍目（強拍）に伸ばし置く。末尾「若人の」の「わ」や「こおどの」も同様である。

これは②③で述べたように「抑揚」を活かした旋律の配置法で、歌い易さに繋がり、曲全体で統一して効果的に駆使されている。しかも前の句の末尾音と同じ音で次の句に移る形が進んでいる個所も多くある。

この歌い易く、流麗な曲への技法が四つ目の大きな魅力点である。

⑤ 二声の合唱曲として創作された。当初、家庭課程併設で女子生徒が多く迎える計画があり、曲は二声部（二部合唱）の形態で創られている。このことに関わり、

(1) 冒頭「光あり」で上下二声に別れて進む箇所「ホルン五度の手法」が用いられている。（これは狩猟の角笛の響きや、森の木立の合間から陽光が差し込む情景にも似た清々しい効果を狙う和音進行の手法）



二・三番も同様爽やかな雰囲気での始まりをなしている。

(2) また、同じリズム型で音を変えて高揚し続ける「ゼクエンツ」の畳みかけの面白さや、

(3) ある旋律に対して別の旋律を対比させ位置づける「対位的技法」を駆使し、二声部の線の動きを雄大且つ流麗なものとしている。時には「反進行」で緊張感を高め、時に「並進行」で親しみを寄せ合う等、巧みに織り混ぜて「和の言葉」の美しさを醸し出している。⑤項の(1)(2)(3)等のような魅力を多く含み持っている。（下声部は伴奏譜にも記してある。もし、管弦楽伴奏で歌う機会があれば流麗で雄大な本曲の美しさが更に引き立って味わえるであろう）

⑥ 拍子はあくまでも二拍子で。(1) 詞の中に熱田高校の文言はない。「若人」で対象を代替し、地理的描写も象徴的に表わされている。極めて簡潔に象徴的な言葉で綴られた「五音句」の詞には、⑦でも触れるが二拍子が相応しい拍子である。

(2) 詞の雰囲気「海ひろく」や「国土を創り」「おおらけき尾張野」等悠然たる様を音で表すには、やはり緩やかな二分の二拍子が最適である。

(3) 校歌は当然のことながら多くの人が揃って口にする曲である。小刻みの四拍子よりも、おおらかな二分音符を一拍とする二拍子が心一つに合わせ易いし、よく決まるのである。

緩やかに揺れるが如く歌ってこそ胸に去来する懐かしい思いが、熱く蘇って来ようというものである。（二分音符＝六十緩やかに）とある。

これ程、簡潔最小限の言葉とシンブル流麗な旋律とで息を合わせ創られたこの結晶は、稀に見る「二分の二拍子の秀作歌曲」と言えよう。

⑦ 全曲一分の透きもない構成。「五音句」一つが、二小節単位のモチーフ（楽式用語＝動機）で全曲を形造る基礎となっている。

(1) 冒頭の「續あり」が（歌劇の序曲のように）二番全体の主張を暗示する序奏部として掲げられている。

(2) 「日に月に」の十音句で四小節（動機二つ＝小楽節）を形作り、「国土を」の十音句四小節（小楽節）を続け、計八小節の（大楽節）をなして次の（大楽節）を待つ。

(3) 「おほらけき」の十音句で四小節（小楽節）に「若人の」の十音句（小楽節）を続け、計八小節（大楽節）を、(2)の（大楽節）に繋いで計十六小節（＝大楽節二つ）の二部形式を整え、主題を提示している。

(4) 最後「若人の力なり」の繰り返しは、（異論があるかも知れないが）私は結尾部（再度主張を強調する結びの楽句）＝（コード）と考える。

最後の象徴的で意味深い言葉「若人の望、力、命なり」の繰り返しについては、当然作者合意の上での事で、この構想そのものが、本曲最大の魅力点である。

この曲は、まさに熱田と言う心のふる里を感じる「望、力、命の賛歌」である。

⑧ それにしても、簡潔かつ流麗で見事な構築による構成である。

前半は、冒頭を除いて軽い跳躍で恰もさざ波が寄せる如く進め、各句第二音（揚音）を示した後、同度か長二度下の（抑制音で一々二回小分に返す形で安定を得る手法で「朝至る」まで穏やかに綴る。

「あかねさす」からの後半は、四々五度の跳躍で三、四回とたたみ掛け、動的で徐々に緊張感を高め、

同じ文言の二回目最後の「若人」

の「わ」から「こ」には頂点を狙うべく思い切って短七度上に跳躍し、「おどの」と三度下から隣音で並べ、次いで命の「い」の音は弱拍（二拍目の裏）に置きながらも「曲の頂点としての冠」として高らかに発して（一・二番の望、力の抑揚に反するのは承知の上で）初回よりも三度高く始め、「のー」と三度ずつ下げ、更に「ち」へと冒頭で上った同じ長六度の道をここでは下がり、三段構えで波を引かせ、五度上に「な」の波を寄せたあと「り」の隣音で最後の波引きをし、安定させて曲を閉じる。

恰も普遍不動の海辺の堅固な城を「光、績、緑あり」で一々三番毎の大意を暗示する堀を序奏部で示し、

主題提示後に、同じ十句文言の繰り返し「若人の望、力、命なり」の結びの楽句に更に強調するバリアで守り続ける様相を呈しているかの様に思える。

（伴奏譜には三番の前に間奏が入っている。一テンポ合わせと、三番の詞「命」の抑揚の取り戻しの為と、更に⑥項で述べた休止符皆無の中で

呼吸整えの場を挿む意図か）前にも述べたとおり

最後の象徴的かつ普遍的で意味の深い言葉「若人の望・力・命なり」の繰り返しは、この曲最大の魅力点でもある。

教育目標（体育館に掲げられている三葉の楠木の葉に象徴されている）

一（多少とも教養を得た人としての）

「品格」

一（目標を持ち前向きに生き抜く）

「気力」

一（心身ともに伴ったの）

「健康」

これは、熱田で青春を過ごした者への人生の目標ともとれる。

「望・力・命」の言葉はその儘、励ましの声掛けに聞こえる。

最後に、この曲はまさに「熱田という心のふる里」を永久に感じる

「望・力・命の賛歌」であり、また「励ましの賛歌」とも言えよう。

以上長々と述べましたが、話がありまわり口説く専門的になっても：と思いません故この辺りで止め置きます。



# 熱田高校の今

## 教育課程の変更

教務部 近藤 慶

平成二十五年度から高等学校でも新学習指導要領が完全実施されます。それに伴い、本校の教育課程を生徒の実情に合わせて、ここ数年かけて変えてきました。主な変更としては、次の二点が挙げられます。

- ① 週当たりの授業時数を、段階的に増やしました。
- 平成22年度31時間(第一・二学年のみ)  
平成23年度31時間(全学年)  
平成24年度32時間(全学年)  
② 平成二十四年度入学生から、類型選択を第三学年からだったものを第二学年からにしました。

本校生徒の進路希望として、ほとんどが大学進学を挙げています。

ここ数年の卒業生の様子を見ると、入学時から国公立大学合格を目標に頑張ってきた生徒が、学力が思うように伸びないため、私立大学に志望校を変えています。生徒によっては授業の進度が遅く、入試科目の試験範囲の演習時間が足りないため、試験範囲の狭い大学に変えています。このような状況を改善するため、週当たりの授業時数の増加と類型選択の早期化について検討しまし

た。文系・理系ともに、それぞれの類型の中心教科・科目の授業を多くすることで、入試の準備としての演習時間がある程度カバーできると考え、そのためには、週当たりの授業時数の増加と、早期での類型選択が必要であるとの結論に至りました。

したがって、生徒にとっては従来よりも早い時期に、類型選択をしなければならなくなるので、生徒に対して、入学当初から卒業後の進路を考えさせ、適切な類型選択ができるようにしなければなりません。総合的な学習の時間やHRの時間等を活用していきたいと考えています。

## 生徒指導をみつめて

生徒指導部 早瀬 浩文

私が熱田高校に赴任して六年を迎える。この短い間にも生徒、学校を取り巻く環境も大きく変化をしてきた。スマートフォンなどの普及に伴い、校内だけでなくネット上のバーチャルな空間での繋がりが増え、生徒に注意喚起する分野も多方面に広がっている。あわせて教育現場全体における規範意識の低下・社会性の欠如、無気力化などの大きな課題も背景にある。

その様の中、生徒指導としても一度原点に戻り、基本的な指導を徹底していこうと考えた。その第一歩が身だしなみ指導、遅刻入室指導である。昔の生徒であれば、自分で規範意識を高めることは、当り前の事であったかもしれないが、生徒・保護者の意識の変化、社会の様子などを考え、現在の生徒に欠如している部分を補い、熱田高校の生徒として、一本筋の通った生徒を育成していこうと指導を継続している。今年度の様子を見ると、身だしなみも落ち着き、遅刻数も数年前の半分以下に減少している。生徒の意識の高まり、先生方の指導の効果が現れているものと考えている。この様な基盤を整え、校風でもある「生徒の自立」「自主性の確立」を目指している。

熱田高校も創立六十周年を迎えた。今までに数多くの卒業生を輩出し、数え切れないほどの先生方にもお世話になってきた。時代は変わり、学校を取り巻く環境が変化しようとも、しっかりとした土台の上に築く、熱田高校の目標は変わることがない。これからも生徒の成長を見続けていきたいと考えています。

## 図書文化部の活動

図書部 大橋 昭紀

熱田高校の図書館運営に関しては、現在も図書文化委員の生徒たちが中心となって、様々な業務をこなしてくれています。カウンター係の

生徒たちは、毎日、交代で図書館のカウンターにつき、貸出・返却業務や、本の検索など、図書館利用者の便宜をはかっています。整理係の生徒たちは、返却された本の整理や、おすすめの図書のディスプレイを工夫して行っています。また、活動係の生徒たちは、毎月発行される『図書館だより』の作成や、一年に一度発行される『図書館報』の企画・編集に尽力しています。そして、文化係の生徒たちは、夏の「文化行事」では運営の中心となり、秋から冬にかけては校誌『熱田』の企画・編集を担っています。また、秋の読書週間に合わせて行われる「図書館まつり」では、それぞれの係が、図書館利用者へプレゼントする葉を作ったり、図書館まつりに特別なディスプレイをしたり、おすすめの本に関するポップを募集するなどして、生徒たちにとって図書館がより親しみやすい場所となるよう努めています。こうした様々な活動を円滑に進めるため、それぞれの係長が常任委員として、毎週、委員会を持ち、自分たちの活動を検討しています。

このように現在でも、生徒が中心となって図書館運営が行われているという事は、熱田高校の誇るべき点であり、それはやはり多くの卒業生の方々から受け継いだ「伝統」があつてこそのものであると、私自身も今年から図書の仕事に携わるようになって、改めて感じ入っている次第です。

優秀な生徒と強力な支援者

総務部 志村 俊人

今の三年生と同時に本校へやってきました。赴任してすぐ感じたのは、気持ち良く挨拶のできる生徒が多いということ。すれ違う時に一度足をそろえてから会釈する彼や、相手の目を見てにこやかに挨拶する彼女の表情からは、精神健康度の高さが感じられました。

昨年度より総務主任を仰せつかり、式典や集会で典礼をやっております。初めて全校生徒の前に立ち、手に持ったマイクを胸の高さに上げた瞬間、それまでざわついていた体育館が、サーッと静かになりました。静寂が広がっていく快感に、背中がゾクゾクしたのを覚えています。彼ら自身もその心地よさを心得ているようで、それ以降も式典は落ち着いた雰囲気の中で進行しています。彼らが優秀な集団であることがわかります。

総務主任はPTAの庶務でもあり、PTA役員や委員の皆様には、いつもたいへんお世話になっております。本校のPTAは、とても精力的です。生徒のため、学校のためになることを積極的に推し進めようという姿勢で、この数年間にいくつかの新たなアクションをおこされました。空調設備の導入、学校懇談会の実施、公開授業の実施、外部模試の校内実施等、学校に働きかけ、あるいは学校と協力して、次々に実現してきました。このように熱田高校PTAは、

熱高生の力強い支援者です。

そして、もうひとつの強力な支援者が、熱田高校同窓会です。今回の創立六十周年記念事業で贈呈された緞帳や体育館の空調設備はもちろん価値ある贈り物です。さらに、記念行事で御講演いただいた三人のトップランナーが同窓生であるという事実も、生徒にとつてかけがえのない贈り物であり、彼らの胸に未来への大きな希望を授けてくださったことと思います。

優秀な生徒と強力な支援者により、熱田高校がますます発展していけるよう、私たちが力を注ぎたいと思います。

創立六十周年記念式典の模様



日本IBM会長 橋本孝之氏



祝辞 佐々木会長



坂 智広教授(26 回生)



松永三郎教授(26 回生)



生徒代表 誓いの言葉

市民 16

中

活躍OB「未来に挑め」

熱田高60周年式典で講演

創立六十周年を迎え、宙航空研究開発機構模の人口増加と食料危機た熱田高校が八日、同校で記念式典を開いた。これからの時代を生きる」をテーマに、卒業生による講演があり、在校生にメッセージを送った。講演したのは、第十八回卒業生で日本IBMの橋本孝之会長と、第二十六回卒業生の横濱市立大木原生物学研究所の坂智広教授と宇小麦の品質改良を研究する坂さんは地球規模の問題に挑む。二の緑の革命を起そう」と呼びかけた。松永さんは自身の手掛けた小型衛星などの開発過程を説明。「今日の不可能は明日可能になる」と挑戦する大切さを説いた。それぞれの分野で活躍する卒業生の話、在校生だけでなく、保護者も興味深そうに聞き入っていた。

さらなる健康を目指して

保健部 上原香織

今年度保健室では、熱高生の健康意識向上を目指して、低体温をテーマとした研究を実践している。その一環として、今年の文化祭で保健室特設ブースを企画実施した。

低体温や体温実態調査結果についての掲示、体温・血圧・体脂肪・筋肉レベルなどが測れるコーナーを設けたところ、多くの来訪者で大盛況となった。特に、体脂肪・筋肉レベル測定コーナーが大人気で、一日に何回も測りに来る生徒もおり、筋肉自慢の男子生徒達や、体脂肪が気になる女生徒達が結果に一喜一憂し、仲間同士で盛り上がっている様子が多くみられた。また、「私、低体温なんだけど、どうしたら改善できる?」と養護教諭に質問する生徒の姿もあり、生徒たちは自分の健康に興味しんしんとでも生き生きとしていた。

この保健室特設ブースをとおして、私は、案外生徒たちが自分自身の健康に関心を持っているということに驚き、養護教諭としてとても嬉しく感じた。

熱田高校の生徒たちは、何かきっかけさえあればそれを自分の力に変えるエネルギーを持っている。これからも、保健室から健康意識向上につながる「きっかけ」を積極的に提供していこうと考えている。

そして、保健室で生徒たちを見守りながら、養護教諭だからこそでき

ることを日々模索し、熱田高校のさらなる健康と元氣を目指して、尽力していきたいと思う。

特別活動推進部の現状

特別活動推進部 星野 孝之

部活動の活躍について

現在の部活動は、文化部(同好会含)が18・運動部が10あり放課後を中心に活動を行っています。

文化部では、物理部が実験を中心に活動し、平成二十二年度には文部科学省主催コンクール全国大会にて審査員特別審査賞を受賞しました。また平成二十四年度から三年間にわたり、文部科学省の支援を受けることになりました。吹奏楽部は、愛知県吹奏楽コンクールで県大会に出場し銀賞を受賞しました。



高校生科学教室表彰式

小学校で実験教室

活躍する物理部

スーパーカミオンにて

愛知、熱田 初戦突破



激しい攻防を繰り広げる熱田、一宮西の選手たち

運動部では、愛知県総合体育大会において、サッカー部・女子バスケットボール部・柔道部が、県大会ベスト十六。陸上部・女子テニス部が、県大会に出場し活躍しました。名古屋市立大会では、柔道部・サッカー部が優勝し、女子テニス部が準優勝しました。

第60回学校祭について

本年度も熱高祭が文化祭(二日)・体育祭の計三日間で実施されました。一般公開当日には、雨模様にもかかわらず、今年、正門前で人気アニメの主人公を描いたゲート。ペットボトルを使用したタワー型のモニュメント、ブロックごとの垂れ幕、各クラスの職が入場者を迎えました。生徒たちは夏休み中から取り組んだ演劇・展示などを体育館・武道館、教室などで発表しました。またPTA主催の焼きそば・カレーなどの模擬店も文化祭を盛り上げました。

24年11月11日(日) 瑞穂陸上競技場 準決勝第二試合 キックオフ13時雨天 結果 岡崎城西 5 - 2 熱田



全国高校サッカー 県大会

第91回全国高校サッカー選手権大会

熱田後半、力尽きる

熱田は前半終了間際に、FW黒田時矢選手(3年)のシュートで同点に迫っていたが、後半に突き放され、力尽きた。今月1日、DF中村考毅選手(3年)が、練習中に味方と交錯し、右足首を骨折した。準決勝、決勝の出場は絶望的。予想もなかった現実には、涙を流して悔しがった。「あいつを絶対全国に連れて行くぞ」。チームが一丸となって準決勝に臨んだ。終了後、松葉づえをつきながら歩み寄ってきた親友に、黒田選手は「お前のおかげでここまでこれたよ。ありがとう」と涙ながらに声をかけた。

(新聞記事より)

体育祭では、本年度から熱中症対策として応援席のスタンドの横にテントを追加しました。また、かねてから要望の強かった部活動リレーは、競技の部・パフォーマンスの部の二部構成で実施しました。競技の部では、サッカー部が優勝し、パフォーマンスの部では、演劇部などが華やかな演技?で体育祭を盛り上げました。

体育祭 綱引き



体育祭 騎馬戦



体育祭 玉入れ



体育祭 熱高リレー



各ブロックの垂れ幕



文化祭 クラス発表演劇



文化祭 有志によるダンス

### 定時制課程の今

教頭 伊藤太佳彦

定時制課程では、平成十九年度入学者選抜から募集定員を前期選抜分と後期選抜分に分け、それぞれ入学者選抜を行って合格者を決定しています。平成二十四年度は三十九名の新入生を迎えてスタートしました。

学習活動では「授業を大切に」をモットーに、落ち着いた学習環境づくりと少人数数学級編成により分かりやすい授業を目指しています。十二月に実施したアンケートでは、「授業はわかりやすいと思う」という質問に対して、七割近い生徒が「そう思う」「ややそう思う」と答えています。

日々の学習活動とともに、球技大会や体育祭、文化鑑賞会や生徒会行事などの特別活動にも熱心に取り組む活気ある学校生活が展開されています。特に球技大会や体育祭では生徒会役員が中心となって事前の準備や当日の運営を行い、大いに盛り上げられました。

学校生活の充実ぶりはアンケート結果からもうかがうことができます。例えば「熱田高校定時制に入学して良かったと思う」という質問に対して、八割以上の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と答えています。

また、十月七日に岡崎市せきれいホールで行われた第五十二回愛知県定時制通信制生徒生活体験発表大会では、三年生の森川秀人君が『アルバイト先での成長』という題で発表し、

奨励賞を受賞しました。



生活体験発表大会 (森川秀人君)



球技大会 (バレーボール)

体育祭



進路指導部の当面する課題

進路指導部 都筑 秀夫

熱田高校は部活動と学校行事が活発である。この伝統は今でもしっかりと受け継がれており喜ばしい限りです。しかし、学習・進路の面においてはどうかでしょうか。先輩方が在籍していた頃と比べて、学習時間は少なくなっているのではないのでしょうか。三年生の後半にならないと進路決定の本格的な行動に移せない、進路意識の希薄な生徒も近年増加しているように思われます。低学年のうちから進路意識の高揚を図るために、今年度から第二学年からの理系・文系の類型選択を導入しました。近年、大学入試制度はめまぐるしく変化し、AO入試・推薦入試の拡大や、一般学力入試の多様化・複雑化など、我々教員でも把握しきれないようになっています。大学入試の結果予測も読みにくく、合否判定がなかなか難しい状況になっています。それゆえ、生徒は進路選択をとにかく早く決めてしまいたいという気持ちが強くなり、国公立大学を目指せるだけの学力をもちながらも、私立大学のAO入試や推薦入試に流れてしまう生徒も、増加してきているようです。低学年のうちから進路意識を高め学習習慣を確立させること、入試の状況を的確に分析して合否予測をたて、生徒が少しでも高い目標に向けて最後まで頑張る体制を確立することが、熱田高校の進路指導の

当面する課題となっています。資料として『最近五年間の卒業生の進路別実数』『過去五年間の進学率と地元主要大学の合格者数』『過去五年間の国公立大学合格者数』を載せておきます。

過去 5 年間の卒業生の進路別実数 (現役生のみ)

年度	4 年制大学		大学院	短期大学	専門学校	就職		家事従事	その他	浪人	合計
	国公立	私立				公務員	民間				
23	11	233	0	20	44	3	0	0	2	35	348
22	15	186	0	18	37	6	4	0	4	35	318
21	3	201	0	23	50	0	2	0	4	35	318
20	11	206	0	18	34	3	5	1	8	29	313
19	21	208	0	32	31	2	2	4	8	45	353

過去 5 年間の進学率と地元主要大学の合格者数 (延べ数)

年度	大学 (%)	専門 (%)	南山	愛知	名城	中京	愛知学院	愛知工業	中部	愛知淑徳	金城学院	福山	国公立	浪人
23	75.9	12.8	18	56	71	35	48	18	18	50	9	13	12	35
22	72.8	11.3	12	33	28	27	27	5	18	33	9	9	15	35
21	71.4	15.7	8	24	47	18	38	4	28	31	13	11	3	35
20	74.1	10.9	25	31	38	22	43	8	30	26	15	18	11	28
19	73.8	8.3	14	51	40	26	57	19	31	21	15	21	23	45

過去 5 年間の国公立大学合格者数

23年度		22年度		21年度		20年度		19年度	
現役生	12	現役生	15	現役生	3	現役生	11	現役生	23
浪人生	4	浪人生	2	浪人生	6	浪人生	13	浪人生	11
名古屋	1	名古屋	1	愛知教育	1	岐阜	2	名古屋	2
名古屋工業	1	名古屋工業	1	岐阜	1	静岡	1	名古屋工業	3
愛知教育	3	愛知教育	1	和歌山	1	三重	1	愛知教育	1
岐阜	1	三重	2	浪人生	8	高崎経済	1	豊橋技術科学	2
北見工業	1	富山	1	名古屋	1	愛知県立	5	岐阜	1
茨城	1	山梨	2	三重	1	県立広島	1	静岡	1
滋賀	1	信州	1	東北	1	浪人生	13	三重	2
鳥取	1	鹿屋体育	1	筑波	1	愛知教育	1	山形	1
高知	1	愛知県立	1	富山	2	三重	3	広島	1
愛知県立	1	静岡県立	1	富山	1	富山	1	徳島	1
浪人生	4	富山県立	2	山梨	1	山梨	1	鹿屋体育	1
東京工業	1	北九州市立	1	山口	1	山口	1	琉球	2
愛知県立	1	浪人生	4	徳島	1	徳島	1	愛知県立	2
高崎経済	1	三重	1	高知	1	高知	1	秋田県立	1
大阪府立	1	大原教育	1	福岡教育	1	福岡教育	1	前橋工科	1
		鹿屋体育	1	名古屋市立	1	名古屋市立	1	富山県立	1
		琉球	1	高崎経済	1	高崎経済	1		
				前橋工科	1	前橋工科	1		



会員名簿 2012 年版  
2012 年 11 月 11 日発行

題字 初代書道教諭 名郷紫山



空調設備



どんちよう 緞帳

訃報

水野 覚教諭 平 22・12・6  
櫻井梅弘 校長 平 23・7・16  
ご逝去に接し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。し上げると共にお知らせいたします。  
クラス幹事の皆様へ  
訃報は悲しい出来事ですが、事務局まで葉書でご連絡ください。  
(係より)